



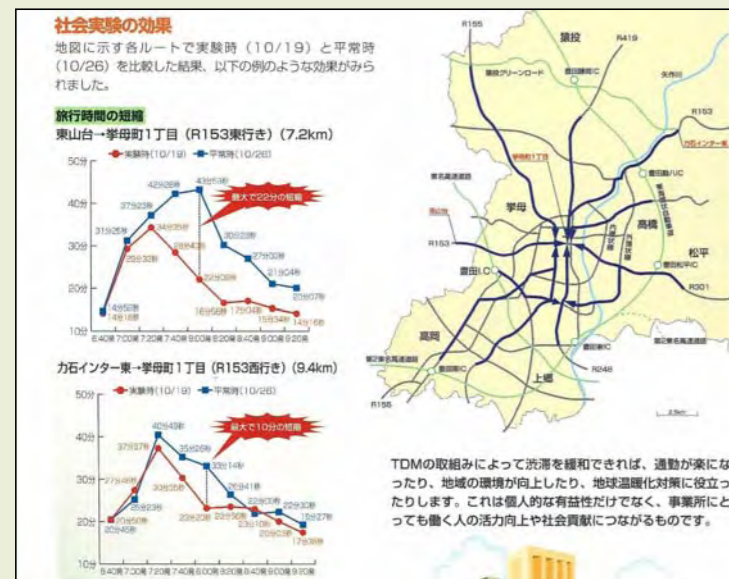
豊田市エコ通勤をすすめる会の改編と活動

〔 第七回JCOMM (富山国際会議場) 2012年08月05日 ポスター発表B 〕

山崎基浩((公財)豊田都市交通研究所), 近藤裕介(豊田市都市整備部交通政策課), 小田康夫(豊田商工会議所総務企画部), 伊豆原浩二(愛知工業大学)
國定精豪((公財)豊田都市交通研究所), 小野剛史((公財)豊田都市交通研究所), 樋口恵一((公財)豊田都市交通研究所)

「すすめる会」設立の背景と経緯

- 渋滞対策から始まった豊田市の「エコ通勤」
 - 朝夕ピークの渋滞問題(分散した大量トリップの時間集中)
 - ソフト的な渋滞対策「TDM」にいち早く取り組んだ豊田市 (H6~:社会実験、H8:「TDM勉強会(後に研究会)」設立)



「豊田市エコ通勤をすすめる会」設立の背景と経緯

「エコ通勤をすすめる会」の取り組み背景と設立当初の目的

- 豊田市では、平成6年度から継続的にTDM施策に取り組んでおり、一定の成果を得てきた。
- 事業所が主体となって、実効性のある取り組みを進めるために「豊田市エコ通勤をすすめる会」を設立。豊田市内の道路交通混雑の緩和や公共交通の利用促進、環境負荷の軽減を目指している。
- 同会は自らが主体的にエコ通勤に取り組む事業所で構成する会で、具体的な通勤交通に関する問題や対策実施の意志を持つこと等を参加条件としている。

「エコ通勤をすすめる会」の設立(H20年12月)

【目的】産官の共働によりエコ通勤を推進し、豊田市内の道路交通混雑の緩和や公共交通の利用促進、環境負荷の軽減を図ることを目的とする。(各事業所が主体的・自主的に取り組む)

【会長】名古屋産業大学教授 伊豆原浩二(現愛知工業大学客員教授)
【副会長】豊田商工会議所常務理事 永田勇夫
【事務局】豊田市交通政策課, 豊田商工会議所, (公財)豊田都市交通研究所

【参加条件】

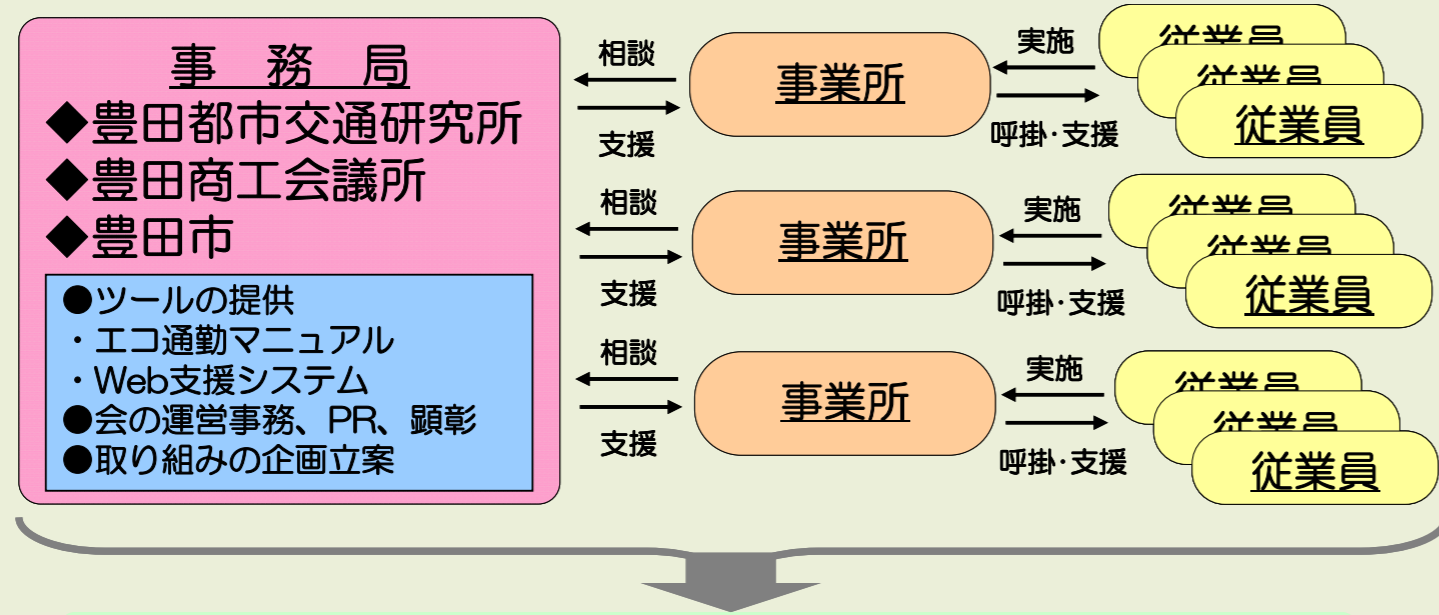
1. 事業所の参加登録シートの提出。(意思の確認)
2. 原則として、豊田市内の事業所を対象。
3. 具体的な通勤問題(駐車場不足、交通渋滞等)を抱え、対策を実施、または実施したいと考えている。
4. 事業所として、通勤問題の解決に向けた意欲がある。
5. 3ヶ月に1回程度開催の会議へのご出席が可能。
6. 自社の取り組みを会議で公表できる。

TDM研究会の取り組みにおける課題

- 官民協働の議論の場がつけられた
 - 事務局と事業所との温度差
 - 社会実験実施の調整協議の場に止まる
- TDMという概念、手法を普及
 - 特定の参加事業所に対して
 - しかし事業所自らの取り組みは?
 - 従業員にとっては、事業所の通勤制度もネックとなっている
- 少数ながら、主体的に取り組もうという事業所が出現
 - やる気のある事業所を牽引役に!

「豊田市エコ通勤をすすめる会」の特徴とこれまでの主な取り組み

事業所が自ら「エコ通勤」に取り組む場として！



事業所主体の取り組みとして、エコ通勤の普及を推進

- 「TDM研究会」は社会実験等で成果を上げたが...
- 効果を持続するためには事業所自らの行動変容が必要(固有の通勤規則、立地条件に応じたメニュー)
- 先行して取り組む事業所が牽引役に、少数精鋭で！
- H20年12月に、21事業所で立ち上げ(現在、26事業所)

推進体制の特徴

【行政主導ではなく「共働(協働)」】

- 事業所に「当事者意識」を醸成する
→ 事業所が主体的に対策を検討。
- まずは事業所内での推進体制を整えるために
→ トップダウンが推進を加速する。
→ 商工会議所の声は企業トップに届けやすい。

【専門組織の参画】

- 最新情報の収集、推進のノウハウ、調査・分析、学会等への情報発信・情報収集
→ TTRIにとって「実践的研究の場」
→ コンサルタント、NPOの活用

「すすめる会」の活動と「エコミュート」

【エコ通勤している人・していない人のワケ】

エコ通勤していない理由

- 公共交通が不便。
- クルマ以外、頭がない。
- クルマに慣れている。
- 雨や荷物があると、クルマが便利。
- 業務でマイカーを使う。
- メリットがない。

エコ通勤している理由

- 公共交通の実態が整っている。
- 自転車が速く、かつ雨なら公共交通使える。
- 徒歩、自転車の楽しさ。
- 公共交通に慣れている。
- 時間が正確。

公共交通の実態

- バスが不便(便数、路線、時間帯、運賃)。
- バス路線の存在を知らない人が多い。
- バスは遅れる。
- 運賃が高い。

【事業所としての問題】

エコ通勤の障壁

- 社内のエコ通勤への意識がまだまだ低い。
- 勤務が深夜に及ぶ。
- クルマの方が通勤手当の負担が少ない。
- 業務用車両が不足。
- 駐輪場や更衣室未整備。
- クルマ通勤の環境を整えている。

なぜエコ通勤すべきか？

- 駐車場の確保ができない。
- 近隣住民への迷惑問題。
- 法人としての環境への取り組み。

【第4回すすめる会】でのグループディスカッションの様子と討議結果

どうしたら促進できる？

- 従業員のメリット、会社のメリットを。
- 従業員の自主性→意識改革を促すPRが必要。
- 公共交通を使いやすくする(便数、路線、時間帯、運賃)。

事業所として、何が出来るか？
[第4回「すすめる会」までの宿題→持ち帰って検討]

- 平成23年度までに11回の会議を開催
- 他都市事例の勉強、グループディスカッションによる問題、課題の抽出
- 各事業所が対策案を検討(対策案検討シートの作成)
- 会員である交通事業者から、公共交通利用策の提案

PR活動「エコミュート(ecommute)」の展開

- 目的**
 - 取組みの見える化(PR)→エコ通勤を多くの人に広める。
 - 通勤者個人の「遊び心」に訴えながら、エコ通勤に対する意識を高める。
- 実施内容**
 - ポスター、チラシ、クリアフォルダの作成と配布
 - 小冊子の刊行
 - 飲食店協賛企画(タンブラーのプレゼント)
 - ラジオCMと時報によるPR
 - Webサイトの設置と ecommute 会員の募集



PR活動「エコミュート(ecommute)」の展開

- Webサイトの設置と ecommute 会員の募集
 - 「豊田市交通まちづくり推進協議会」が主体として設置していた「チャレンジ！エコ通勤」サイトに代えて
 - 遊び心を持たせ様々なキャンペーンを展開しながら、簡易な実績報告でエコ通勤の効果を「見える化」する

「豊田市エコ通勤をすすめる会」の運営課題と改編

「エコ通勤実践目標管理シート」を眺めてみると・・・

	昨年度の状態	要望事項など	今年度の予定	目標に向けた課題
A社	①通勤距離2km以内の従業員に対し、自転車通勤への切替を進める（エコ通勤手当の実施） ②エコ通勤冊子を配布し、エコ通勤の理解を深める	・他の事業所の状況を会議毎に知らせてほしい ・市内の全ての駅に有料でもいいので鍵付駐輪場を設置してほしい	・自転車駐輪場の整備（自転車利用者の拡大） ・すすめる会の資料などで社内に啓発 ・雨天時の柔軟な対応（雨天時の車利用の許可） ・未定	・エコ通勤手当の対象者の拡大（制約の撤廃） ・駐輪場の事業所内への設置
B社	OH19年度にエコ通勤内規を制定したが、その後は新しい取り組みはない	・参加事業所数が少ないので、全体的な推進が難しくなっている	・全社員で何らかのエコ通勤を実施する	—
C社	①従業員は少ないためエコ通勤の周知はされているが活動はまだ不十分 ②会議は参考となることが多く、参加意識あった	—	—	・現状把握、社内での合意形成
D社	①エコ通勤冊子の設置、ポスターの掲示	—	・エコ通勤の促進へ向けた従業員に向けた積極的な声かけ	・既にエコ通勤者がほとんどだが、沿線住民でない者への対応が課題（エコドライブの周知徹底）
E社	①エコ通勤冊子、ポスターの掲示 ②毎月の研修会で省エネについて積極的に呼びかけ	・講演会などを実施いただき、知識を吸収できる場を設けてほしい	・エコ通勤（公共交通機関の利用）ができない勤務形態であり、エコドライブをメインとせざるを得ない	—
F社	①エコ通勤冊子の設置、ポスターの掲示 ②エコ活動宣言（アイドリングストップなど）	・事業所の実態にあったフォローをしてほしい	↑（同上）	↑（同上）
G社	①エコ通勤冊子の設置、ポスターの掲示（会社自身でエコ通勤の積極展開はできなかった）	・エコ通勤の魅力を高める（歩道や街並みの整備） ・事業所間で共同運行の通勤バス、自転車共同利用	・エコ通勤参加率の向上 ・公共交通機関での通勤者の10%UP	・従業員への周知方法 ・就業規則の見直し ・業務改善 ・公共交通機関利用環境の改善
H社	○他の事業所の状況を把握でき、次年度への参考となった	—	・エコ通勤の理解と会員登録呼びかけ ・駐輪場の整備 ・エコ通勤手当の見直し	・これまで事業所としてエコ通勤に取り組んでこなかったため、社内体制の見直しなどが必要 ・講演会や会議資料などで、エコ通勤の事例や状況把握は今後のために継続する
I社	①駅から自転車の実施 ②エコ通勤冊子、ポスターの掲示	・渋滞対策として取り組んできたが、渋滞が緩和されエコ通勤の促進（社内の雰囲気）が停滞	・震災対応が重要視され、業務がその対応へシフトしたため、具体的に取り組む余裕がない	—

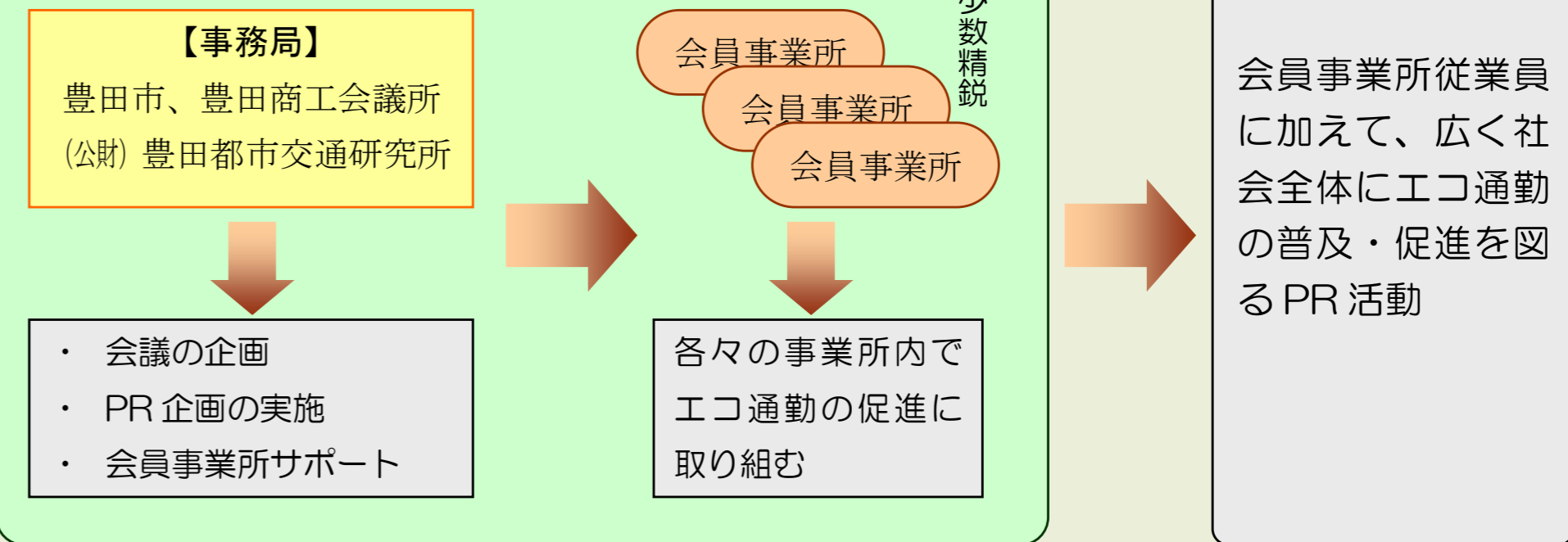
- ・ 提出は事務局除く21事業所中、9事業所。
- ・ 具体的な目標設定ができない、積極的に取り組めない事業所あり。→ 既にできる限りの対策を実施済みの事業所や、社内運営陣の理解が得られない事業所も。
- ・ エコ通勤の冊子やポスターの活用はある程度されていた。
- ・ 比較的小規模な事業所で具体的な対応がある。
- ・ 新しく参加した事業所に積極的な姿勢がみられる。

新たな展開に向けた改編

【豊田市エコ通勤をすすめる会の活動イメージ】

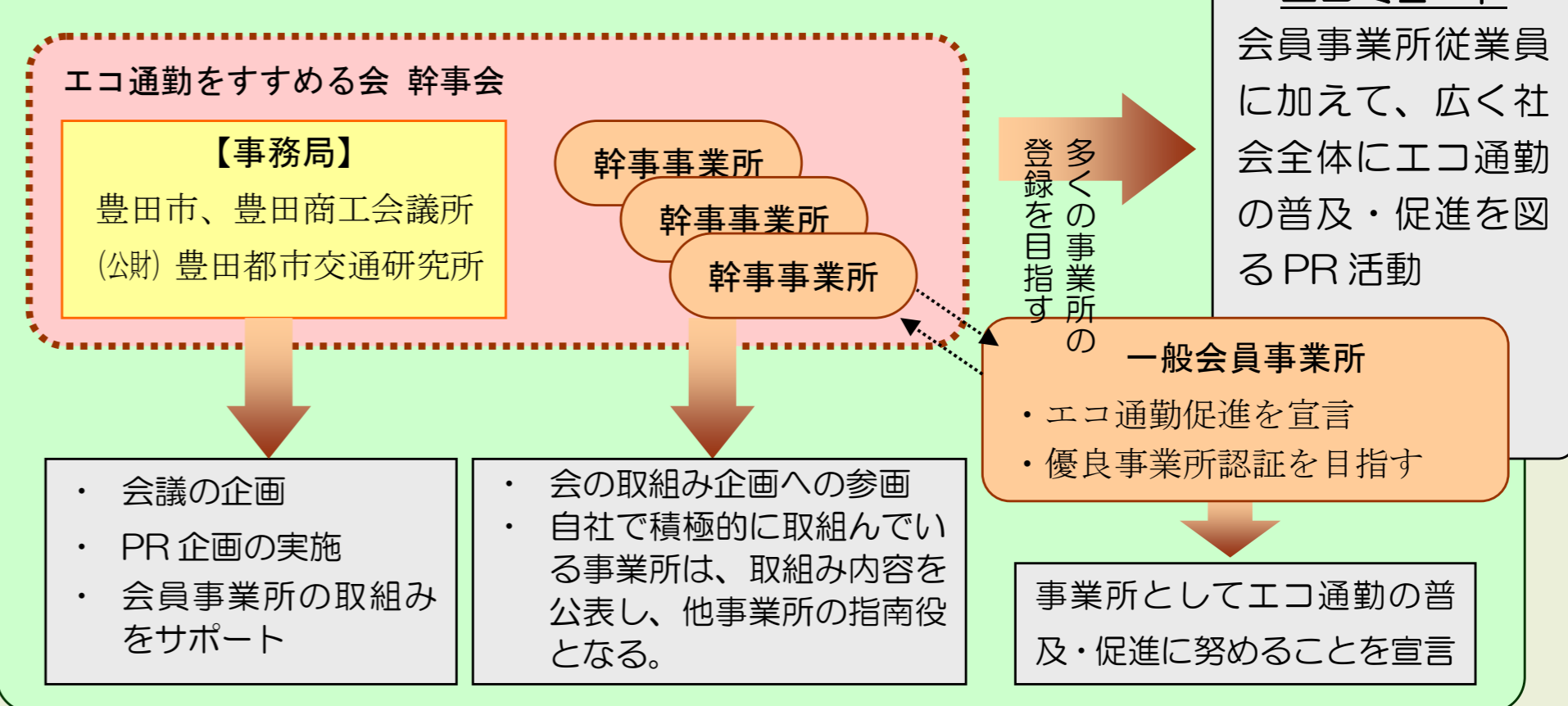
■ 改編前の「すすめる会」

豊田市エコ通勤をすすめる会



■ 改編後の「すすめる会」

豊田市エコ通勤をすすめる会



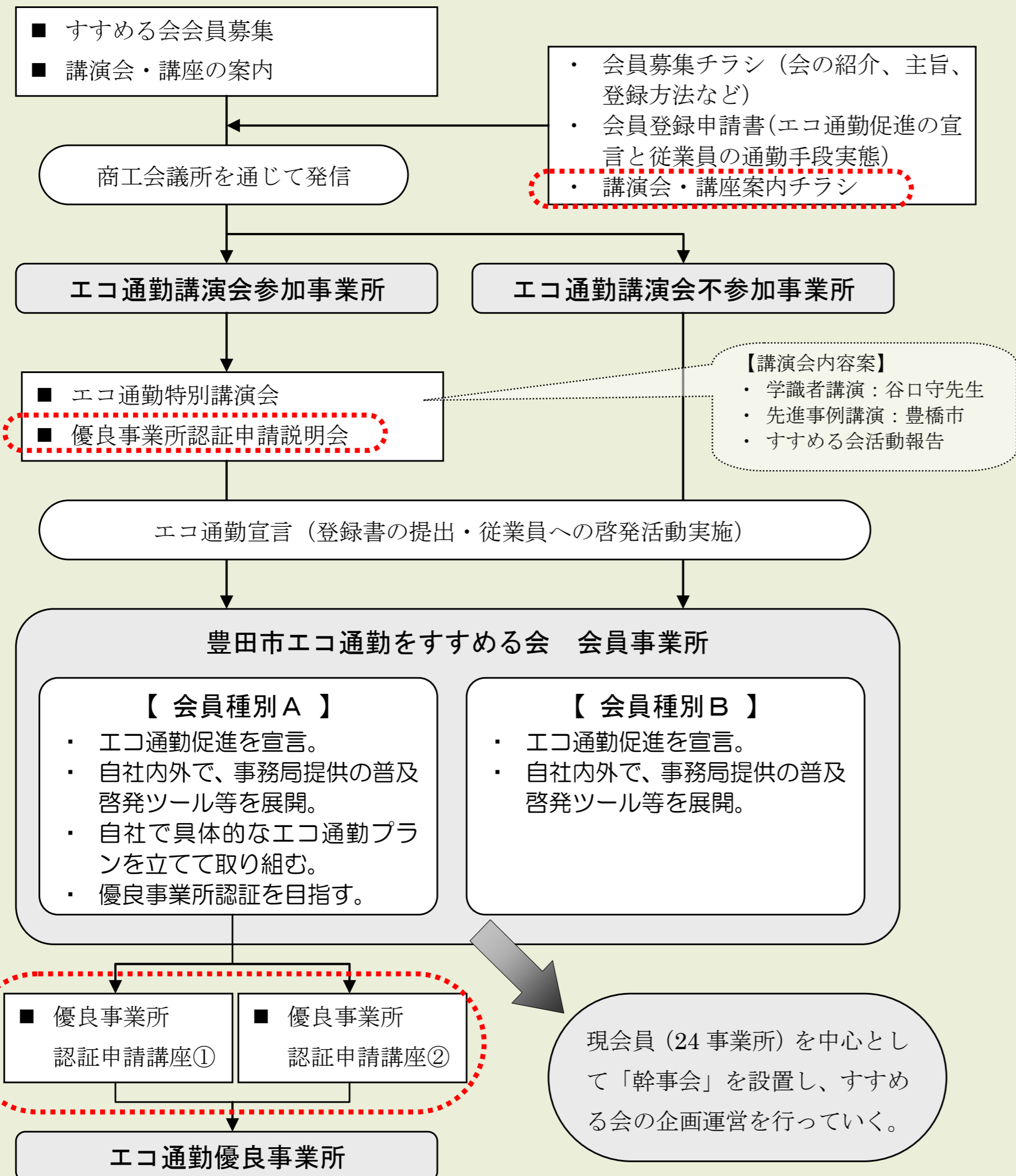
- ・ すすめる会への参加のインセンティブ向上 → 事務局の努力、主力会員の企画参画
- ・ 地域社会全体への影響を高めるために → 「少数精鋭」に拘らず、多くの賛同会員を得る
- ・ 小規模事業所の機動力に期待 → より広く、会への参加を募る
- ・ 参画しやすい組織体制を → 会議への参加は義務づけず、講演会などへの参加を案内

エコ通勤をすすめる会の運営課題

- 今年度の活動のために提出を依頼した管理シートの提出率、会議の出席率ともに低調。→ **参加意欲ある事業所と無い事業所の格差大**
- 発会当時の趣旨である「事業所自らが主体となって積極的にエコ通勤に取り組む姿勢」を持った事業所が減少している。→ **今以上に社内展開できない、経済情勢・震災対応等でそれどころではない？**
- 会に参加するメリットがなくなった。→ **先行する事業所は既に手を尽くし、社内展開できない事業所は身動きとれず・・・**
- エコ通勤の活用はある程度なされ、一般市民への訴えかけのツールとしても必要と考える。

会の方針、運営方法について、根本的な見直しが必要!!

中部運輸局「交通エコロジー教室」との連携による会員数拡大策の展開



- ※ 中部運輸局「交通エコロジー教室」の事業費（運輸局から環境創研に委託）を適用。
 - ※ 自社のエコ通勤促進への意向が強い事業所を、便宜的に種別A、それ以外をBと表記。
- 平成23年度の「エコ通勤をすすめる会 特別講演会」は、国土交通省中部運輸局の事業である「交通エコロジー教室」とのタイアップ企画とし、会員の募集を行うとともに、より多くの会員事業所が「エコ通勤優良事業所認証」を受けることを目指した。
 - 11月28日に特別講演会を開催。その中で国の「エコ通勤優良事業所認証制度」を紹介し、より詳細な「認証を受けるための講座」を2月2日、7日に開催。

「まちにやさしい! 地球にやさしい! エコ通勤に取り組みましょう!」

豊田市エコ通勤をすすめる会 特別講演会

日時 平成23年11月28日(月) 13:30~17:00 (13:00開場)
会場 豊田商工会議所 4階 特別会議室
定員 100名(定員になり次第、締め切り) **参加費** 無料
参加申込 件名を「エコ通勤特別講演会」とし、①事業所名、②参加者氏名、③連絡先の電話番号をご記入の上メールまたは下記の申込書でFAXにてお申込みください。
申込先 (公財)豊田市交通研究所 TEL 0565-31-7543 FAX 0565-31-9888
 E-mail:ecommute@ttri.or.jp URL:http://ecommute-toyota.jp/
主催 豊田市エコ通勤をすすめる会 **共催** 国土交通省中部運輸局

エコ通勤特別講演会プログラム

■ 開会あいさつ:豊田市エコ通勤をすすめる会会長 伊豆原浩二(名古屋産業大学教授)

第1部 今こそエコ通勤

■ 報告:「豊田市エコ通勤をすすめる会の活動報告」
 豊田市エコ通勤をすすめる会事務局 國定精豪(公財)豊田市交通研究所

■ 基調講演:「エコ通勤実施の基礎と成功のポイント」
 筑波大学大学院システム情報工学研究科教授 谷口 守
 休憩

第2部 エコ通勤のさらなる展開に向けて

■ 事例報告:「とよはしエコ通勤運動の実績と今後の展開」
 豊橋市都市計画部都市計画課 交通グループ 山口雅己

■ 認証制度の説明:「エコ通勤優良事業所認証制度とエコ通勤講座の開催について」
 (社)環境創造研究センター 専務理事 原理史

■ 開会あいさつ:国土交通省中部運輸局交通環境部環境課長 中原 拓

国土交通省の「エコ通勤優良事業所認証」を受けるための「エコ通勤講座」を、別途開催いたします。詳しくは裏面を参照ください。

人事・通勤について取り扱う部署のご担当者様の参加をお待ちしております!

「豊田市エコ通勤をすすめる会」入会のご案内

■ 豊田市エコ通勤をすすめる会とは

- ・ 豊田市内の事業所で構成する任意団体であり、豊田市(交通政策課)、豊田商工会議所、(公財)豊田市交通研究所が事務局を務めています。
- ・ 各事業所がそれぞれのやり方で、自社従業員の「エコ通勤」の促進に努めます。
- ・ 会費等、会員事業所のご負担は一切ありません。

■ 参加のメリット

- ・ 会員事業所の名称をチラシや冊子、ホームページに掲載し、環境面での社会的責任(CSR)を果たしていることをPRできます。
- ・ さらに国土交通省の「エコ通勤優良事業所認証」を受けると、豊田市の委託業務入札において加点があります。すすめる会事務局が、この認証取得の支援をします。

■ 参加資格と活動の内容

- ・ 豊田市内の事業所で、エコ通勤を促進することに賛同いただき、事務局が作成する冊子等PRグッズの提示・配布していただきます。
- ・ 各事業所それぞれで、「できること」からエコ通勤に取り組んでいただき、毎年度、どのような取り組みができたか、簡単にご報告いただけます。
- ・ 年に一度、開催予定の「総会」への出席をお願いします。

■ 参加事業所(平成23年9月20日現在)

■ 「豊田市エコ通勤をすすめる会 特別講演会」参加のご案内

■ 講演会の目的

- ・ 自社従業員のエコ通勤を促進するための基礎知識を提供します。
- ・ 国土交通省の「エコ通勤優良事業所認証」について、簡単に解説します。
- ・ 各事業所の人事、通勤について扱う部署の担当者様にご参加願います。

■ 講演会の内容

日 時:平成23年11月28日(月) 13:30~17:00
 会 場:豊田商工会議所 4階 特別会議室
 参加費:無料 講演内容:別途チラシ参照

■ エコ通勤優良事業所認証を支援する「エコ通勤講座」の開催

別途、「エコ通勤優良事業所認証」を支援する講座を開催します。
 (平成24年2月2日・7日 / みちなびとよた会議室)

裏面の申込書で、FAXにて、お申し込みください!

事業所ぐるみで「エコ通勤」に取り組んでみませんか?

「豊田市エコ通勤をすすめる会」は、市内の渋滞対策や環境対策を目的に、「上手なクルマの使い方」を目指して平成20年12月に設立されました。現在、24事業所が参加し、それぞれの事業所でそれぞれの「エコ通勤」に取り組んでいます。

まずは、特別講演会にご参加ください!!

エコ通勤とは、どんなもの? 「豊田市エコ通勤をすすめる会」の活動は? 他の都市ではどんな取り組みがされているの? 講演会では、そんな基礎知識をご提供いたします。

そして「豊田市エコ通勤をすすめる会」の一員に!!

事業所それぞれのやり方、スケジュールで構いません。「うちの事業所も、エコ通勤に取り組めます!」と宣言して頂き、事務局が提供する広報資料やツールを従業員に展開して頂ければ、「豊田市エコ通勤をすすめる会」の一員です!

※会員事業所は、「豊田市エコ通勤をすすめる会」が発行する冊子「ecommute」やポスター・ウェブサイト内に、社名を記載し「エコ通勤に取り組んでいる事業所であること」をPRいたします。

さらに、国の認証を受けて入札加点を取得!!

エコ通勤に取り組んでいる事業所は、国土交通省から「エコ通勤優良事業所」の認証を受けることができます。

※国土交通大臣からの「エコ通勤優良事業所」認定証が発行されると、豊田市では委託業務の入札加点となります。

※中部運輸局では担当者向けの「エコ通勤講座」を開催し、「エコ通勤優良事業所」認証取得の支援をいたします。開催予定は以下のとおりです。どちらか都合のよい方にご参加ください。講演会当日、参加申込みのご案内をいたします。

<エコ通勤講座・開催予定>
 平成24年2月2日(木)・2月7日(火) いずれも13:30~15:00
 場所:みちなびとよた 会議室 (TM若宮パーキング1F)

(公財)豊田市交通研究所 FAX 0565-31-9888

エコ通勤特別講演会(11月28日) 参加申込書

事業所名	担当者	担当者	担当者
参加者名	様	様	様
連絡先	TEL	FAX	
E-Mail			

2月に開催予定の「エコ通勤講座」への参加意向をおうかがいします。(○をお付けください)

参加してもよい ・ 参加しない

豊田市エコ通勤をすすめる会からのお知らせ

入会のご案内と特別講演会のご案内

豊田市及びその周辺に事業所のある民間企業、公共団体等が集まり、産官の連携によりエコ通勤を推進する「豊田市エコ通勤をすすめる会」の特別講演会を開催します。自社でエコ通勤に取り組むための基礎知識や国土交通省の「エコ通勤優良事業所認証」を得るための情報提供を行います。人事・通勤に関わる部署の担当者様のご参加をお待ちしております。

また、エコ通勤をすすめる会では新規会員登録を随時受け付けております。環境面における企業のCSRの推進やPRに繋がる機会にもなりますので、是非、ご入会ください。詳しくは、本会報折込みのチラシをご覧ください。

<特別講演会開催概要>

日 時 平成23年11月28日(月) 13:30~17:00 **日 時** 豊田商工会議所 4階 特別会議室

講演内容 基調講演 筑波大学大学院教授 谷口守 / 事例報告 豊橋市都市計画課 山口雅己
 エコ通勤優良事業所認証制度の説明 (社)環境創造研究センター 原理史

定員 100名(定員になり次第募集を締め切らせていただきます) **参加費** 無料

参加申込 件名を「エコ通勤特別講演会」とし、①事業所名、②参加者氏名、③連絡先の電話番号をご記入の上、メールまたはFAXにてお申込みください。

お申込み 公益財団法人豊田市交通研究所 TEL:0565-31-7543 FAX:0565-31-9888
 E-mail:ecommute@ttri.or.jp URL:http://ecommute-toyota.jp/

豊田商工会議所も事務局としてエコ勤務活動を推進しています。

- 「エコ通勤特別講演会」には、54名(28事業所)が参加。
- 「エコ通勤講座」には、2日間で11事業所が参加。
- 「エコ通勤をすすめる会」への新規加入は2事業所。
- 「エコ通勤油量事業所認証」を新たに得たのは1事業所。

「エコ通勤特別講演会」と「エコ通勤講座」の様子



筑波大学教授 谷口先生によるエコ通勤成功のポイントをテーマとした基調講演

- ### おわりに(エコ通勤成功のためのポイント)
- 1)仕事を丁寧に。
 - 2)無理しない、急がない、できることから。
 - 3)地域での取り組みに。
 - 4)コーディネータ:各メンバーの心理プロセス上の段階において、最も適切なコトバや方策を選択。
 - 5)フィードバック:自らの行動の意義付け。
 - 6)社会的な組織としての特徴を活かす:優秀な組織。
 - 7)地域公共交通サービスの改善とセットで。
 - 8)企業が得るメリットを考える。
 - 9)コア企業の存在。
 - 10)中小企業が取り組める仕組み(NPOのノウハウ提供他)。
 - 11)様々な支援とうまくリンクする。



豊橋市都市計画課 山口氏から取り組み紹介



「特別講演会」会場の様子



「エコ通勤講座」会場の様子

すすめる会の会員であり、優良事業所認証を受けている株式会社小野組の取り組みを紹介。

3. 認証済み事業所の取り組み 「株式会社 小野組」の取り組み

1. 通勤の現状	バス利用の割合が約20%、徒歩が約30%、自転車利用が約40%、自動車利用が約10%。
2. 取組みの目標	通勤の現状を改善し、環境に優しい通勤を実現すること。
3. 今後の取組み	エコ通勤ポータルサイトを定期的に社内メールで発信し、社内会議等でエコ通勤の大切さを議題にしていく。

- エコ通勤の呼びかけ
 - バンフレットやメールの配布
- エコ通勤を促す通勤制度の実施
 - 相乗り制度の導入
 - 徒歩通勤者への補助制度の導入
- 自転車通勤の奨励
 - 自転車通勤者への補助制度の導入
 - 駐輪場の設置
- 駐車場の削減
 - その他(駐車場区画線を削減)
- その他
 - 豊田市エコドライブ宣言への登録

「エコ通勤講座」で紹介した(株)小野組の取り組み

3. 認証済み事業所の取り組み 「株式会社 小野組」の取り組み

(株)小野組 エコ通勤計画書

目的
昨今の環境問題に弊社も取り組むべくエコ通勤の積極的参加を望みCO2の削減に参画する

計画

1. 自宅から勤務地まで電車2区間未満の者は徒歩・自転車での通勤を目指そう
2. 公共交通機関を積極的に利用しよう
3. 通勤路が重なる者は相乗りで通勤するようにしよう(但しエコドライブを心がけること)
4. 定期的に社内メールにおいて、エコ通勤の報告やメリット等のNEWSを案内しよう

実施報告

1. 本社駐車場においては、2台分の区画線を削減している。
2. 健康促進と環境への配慮のため自転車通勤に進んで変わったもの2名、相乗り2~3名
3. その他エコ通勤となる案件を提出し採用された場合は年度始め式において、賞金と社長賞を授与される。

3. 認証済み事業所の取り組み 「株式会社 小野組」の取り組み

- 事務所にチェックリストを掲示。
- ポイント制度による報償

1オノポイント 50円

3. 認証済み事業所の取り組み 「株式会社 小野組」の取り組み

手前の1台分を削除し、花壇を設置

駐車場区画4台分を3台分に引き直し

3. 認証済み事業所の取り組み 「株式会社 小野組」の取り組み

駐車スペースを削減し、自転車置き場に

3. 認証済み事業所の取り組み 「株式会社 小野組」の取り組み

駐車スペース1台分にビオトープ設置

3. 認証済み事業所の取り組み 「株式会社 小野組」の取り組み

通勤の現状

- 鉄道駅の近くに所在することから、できるだけ公共交通機関を利用する。
- これが課題でもある。

取組みの目標

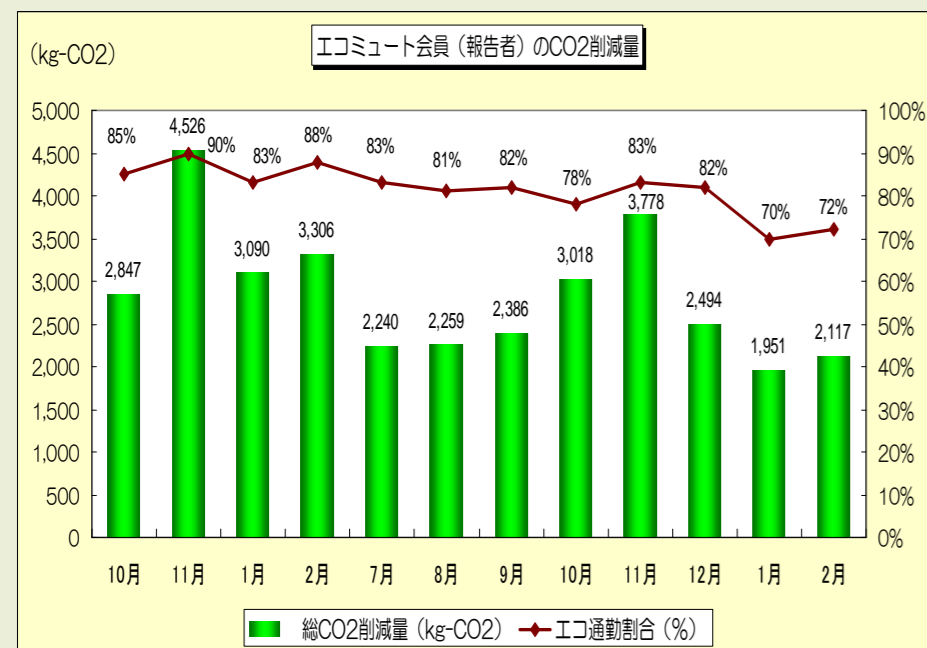
- ノーカーDayを定期的実施していく

今後の取組み

- エコ通勤ポータルサイトを定期的に社内メールで発信
- 社内会議等エコ通勤の大切さを議題にしたい
- ノーカーDay実施日を早目に設定する

「エコ通勤をすすめる会」のこれまでの活動成果

項目	時期	促進効果
会員事業所の増加	H22年度	<ul style="list-style-type: none"> すすめる会設立時に21であった会員事業所数が、24事業所に増加（株ネットフレンズ、株サギサカ、株小野組）
	H23年度	<ul style="list-style-type: none"> 新たに2事業所が加入し26事業所となる（株アイサク、有ヒエノ）
具体的なエコ通勤対策を実施する事業所の出現	H20年度～	<ul style="list-style-type: none"> 社内の検討組織として「渋滞対策委員会」を設置し、関係部署が連携して検討（トヨタ紡織株 猿投工場）
	H21年度～	<ul style="list-style-type: none"> 自転車の共同利用を実施（株ネットフレンズ、プライムデリカ株、株大豊精機、トヨタ紡織株、(公財)豊田都市交通研究所）
	H22年度	<ul style="list-style-type: none"> 自動車通勤からエコ通勤への転換者に対して、エコ通勤手当を導入（株ネットフレンズ） 職員駐車場の割り当て基準の厳格化（豊田市役所） エコ通勤優良事業所認証を受けている事業所の加入（株小野組）
	H23年度	<ul style="list-style-type: none"> 事務局である(公財)豊田都市交通研究所がエコ通勤優良事業所認証を取得
エコミュートWebサイト会員の増加	H23年度	<ul style="list-style-type: none"> エコミュートWebサイト会員が倍増（H22年度98名 → H23年度210名）



項目	平成22年度				平成23年度							
	10月	11月	1月	2月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
システム登録者数(人)	59	83	93	96	106	107	108	208	209	211	211	211
エコ通勤実績記録者数(人)	32	41	36	34	30	31	31	40	39	36	37	34
平均通勤日数(日)	20	20	18	18	18	16	17	19	18	17	17	18
平均エコ通勤日数(日)	17	18	15	16	15	13	14	15	15	14	12	13
公共交通機関(日)	20	2	17	20	4	16	17	17	2	2	1	5
パーク&ライド(日)	2	15	17	8	19	19	18	11	0	0	0	0
相乗り(日)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
時差出勤(日)	29	2	2	4	4	5	4	19	20	18	17	22
バイク(日)	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自転車(日)	18	15	14	17	1	18	17	1	22	10	10	5
徒歩(日)	25	20	19	10	20	19	25	15	13	14	16	12
エコ通勤割合(%)	85%	90%	83%	88%	83%	81%	82%	78%	83%	82%	70%	72%
CO2削減量												
総CO2削減量(kg-CO2)	2,847	4,526	3,090	3,306	2,240	2,259	2,386	3,018	3,778	2,494	1,951	2,117
日平均CO2削減量(kg-CO2/日)	142	226	171	183	124	141	140	158	209	146	114	117
CO2削減率												
総CO2削減率(%)	76%	84%	81%	83%	75%	68%	67%	63%	72%	63%	56%	59%
日平均CO2削減率(%)	78%	87%	84%	90%	82%	74%	75%	64%	73%	64%	54%	57%
総CO2削減量の累積値(kg-CO2)	2,847	7,373	10,463	13,769	16,009	18,268	20,654	23,672	27,450	29,944	31,895	34,012

※エコ通勤割合とは、すべての実績記録者のエコ通勤実施日数を、総通勤日数で除した値である。
 ※CO2削減量とは、すべての実績記録者が全通勤日でマイカー通勤を実施した場合からの削減量である(削減率は、その割合)。
 ※月によって通勤日数が異なるため、月の通勤日数あたりの削減量および削減率も算出している。

- エコミュートWebサイト会員募集を「とよた産業フェスタ」会場で実施し、210名に倍増。
- エコミュートWebサイトでデータ収集した総CO2削減量は34 t-CO2である。
- 月別の総CO2削減量は、サイト開設当初の昨年度11月がピークであり、その後減少していたが、本年度10月の会員増加によって、削減量が増加した。
- しかし12月には減少に転じ、報告者が少なくなっていることがうかがえる。

エコ通勤の促進・会の運営における今後の課題

(1) エコ通勤をすすめる会一般会員の拡大

- 平成23年度の普及啓発活動による新規会員は2社にとどまった
- さらなる会員拡大に向けた取り組みが必要である。トップダウンによる参画の機会を検討。
- 豊田市（行政）として、エコ通勤促進をどう位置付けるのか、明示する必要がある。
- 「会員」となると敷居が高くなってしまおうとすれば、たとえば「エコ通勤宣言事業所」等やわらかい表現を用いることも検討。
- 参画のインセンティブが足りない
- 参画していることの「見える化」として、会員証の発行や名刺等へのロゴ刷り込みなどを検討。
- 会員事業所をPRする機会の創出が必要。特に自社の事業に繋がるようなインセンティブ付与を検討。
- 継続的な普及・啓発活動
- 小冊子「ecommute」やWebサイトの運営を継続することに加えて、入会のためのツール（エコ通勤促進宣言ツール等）の制作が必要。

(2) エコ通勤優良事業所認証に向けて

- 会員事業所へのフォロー
- 特別講演会、エコ通勤講座への参加事業所だけではなく、参加しなかった事業所への情報提供など再三のフォローが肝要。
- 事務局・幹事事業所が率先して行動
- 事務局および幹事事業所が率先して優良事業所認証への申請にチャレンジする。

(3) Webサイト会員の拡大

- 平成23年度に「倍増」したが、今後もさらに会員数を増やしていく
- Webサイトの魅力向上、新たな企画の検討。

(4) 他エコ活動との連携

- エコに関する他活動との連携
- 環境モデル都市推進やエコドライブ、エコポイント制度との連携。

● 他組織との連携

- 市の部署：環境政策課、環境モデル都市推進課 など
- 他団体：まちなか宣伝会議、商工会議所青年部、eco-T など

● 効果的なPRの展開

他組織の取り組みと連携しながら、インパクトのあるイベント等の開催を検討。